



再歩

～にぎわい再び～

焼肉 もりかわ (代表 森川公高さん)

行政区：田原

暑さが和らぎ始めた9月、お昼の仕込みがひと段落した「焼肉もりかわ」にお邪魔しました。

店内に入ると開店時の清潔さを保ったままの空間。奥様の成子さんが普段から小まめに清掃を行っており、客からも焼肉屋のにおいが全くないと絶賛されているとのこと。心地良い雰囲気の中、震災当時から再建までの話を伺いました。

前震の14日は、3月から4月にかけての繁忙期のさなか。その日はちょうど予約がなく、久々の店休日だったので、森川さんは在宅中に被災しました。店舗へ行き中に入ると、1階は皿や調理器具が散乱し、2階は天井の一部が落ちていた状況でした。

「たまたま店休日、お客様もいなかったことが幸いでした。もし営業していたら、2階にお客様を通して状況なので、無事ではなかったと思います」

森川さんは、被災状況を確認し、1週間程度の休みは仕方ないと感じたそうです。「しかし今考えると、余震も続いていたので、1週間での再開は厳しかったかもしれません」と当時を振り返ります。

本震では、2階の屋根が崩れ、1階が辛うじて支えている状態でした。片付けた調理器具が再び散乱しているのを目にし、ぼうぜんとしたそうです。「営業の再開には、テナントを借りることも視野に入れました。ただ、妻と

4人の子どもと何度も行った家族会議の中で、『この津森でお店を続けてほしい』という希望も上がり、決断しました」と話します。

公費解体が行われるか否かがまだ不明の中、いち早く自費で解体を行いました。店の再開に集中するため、仮設店舗の入居を辞退。グループ補助が決定すると、すぐに手続きに入り、何度も銀行や建設会社、行政書士との打ち合わせを行いました。

その間の収入は、主に仕出しでしのごましましたが、店舗営業していた時期からすると大幅な売り上げ減は免れず、

『この津森で お店を続けてほしい』

貯金を切り崩しながら再建の打ち合わせを行いました。「当時は再建の時期も見えず、とても不安でした」と苦境を振り返る一方、「時間があつたので、再建に向けて、タレの研究、店舗の造り、取引先の見直しなど、多くの部分でしっかりと考えることができました」と前向きに取り組んだ森川さん。特に店舗の造りでは大きく見直しを図り、2階の大広間のみから、個室としても対応できる造りに変更、また動線を客の顔が見えるようにし、より身近に感じてもらえるよう工夫しました。以前の大広間の様相を残すように、あえて舞台を残し、常連客にも新しい店

舗がなじむよう配慮しました。

迅速な行動の結果、平成29年11月15日、地震から1年7か月後に店舗を再開。地域に光が戻ってきたと、地元の人にも大変喜ばれました。また、再開後は常連客に加え、町外からのお客さんも増えました。前向きな取り組みが、すぐに結果として現れたようです。

「常連のお客様が喜んでる姿を見るととても救われ、助かります。お店の造りを変えたことで町外の方や新規のファミリー層が来てくれることも、再開までに費やした多くの方との打ち合わせの結果だと、とてもうれしく思っています」

町で商売を行うにあたり期待していることを伺うと、「道路の拡幅や区画整理によって、今までなかったお店も増えると思います。競合店も増えるでしょうが、比較対象が増えることほとても良いことだと思います。ただし、価格競争には加わらず、高品質の和牛を提供し、お客様に満足していただくことが、私たちのお店のスタンズです」と話します。

迅速な行動と大胆な店舗改装で再スタートに成功した「焼肉もりかわ」。おいしいお肉を味わいに、足を運んでみるのはいかが？

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277